

学生や市民が支える情報モラル活動 — Kodomo2.0 の場合 —

角 和博

佐賀大学

活動の経緯

子どものネットの安全・安心を守る市民活動団体 Kodomo2.0 は、2008年4月に佐賀市で発足した。発足のきっかけは、インターネット技術やネット犯罪等の知識に疎い親たちが自ら学ぶことで子どもたちを犯罪から守りたいという思いからであった。

集まったメンバは、市民活動の中間支援者、情報企業関係者、小学校・大学教員、中・高・大学生、PTA 役員等であった。毎週金曜日の午後7時から10時まで佐賀市内の市民活動センターに集まって議論したり、次の講演会のテーマや出演者や上演内容を考えたりしていた。

発足して1年も経たない2009年2月には「第9回インターネット活用教育実践コンクール」で最優秀の内閣総理大臣賞を受賞した。受賞の告知には、「安全にネットを活用するための情報リテラシー教育に、佐賀大や地域の小学校などが取り組んだ Kodomo2.0 (佐賀)」と記されていた。2012年3月に逝かれた坂元昂先生は、当時の審査委員長であり、2010年のシンポジウムで基調講演をお願いした。学生も含めて一緒に食事をさせていただき、その後の我々の活動の大きな励みとなった。

この Kodomo2.0 の活動をより充実させる目的で2010年にNPO 法人ITサポートさが(以下ITサポートさが)を立ち上げた。現在 Kodomo2.0 は、ITサポートさがのプロジェクトの1つであり、あらゆる年代を対象とした情報モラル教育や情報学習のサ



図-1 Kodomo2.0 Web サイト, <http://kodomo2.0saga.net/>

ポート・情報化に関する啓発活動を行うことを目的としたボランティア活動グループである(図-1)。

現在、「ITサポートさが」の Kodomo2.0 プロジェクトは、学校や公民館からの講演依頼、助成金や地域でつくる安心・安全なネット環境モデル事業、委託事業でネットパトロール等を実施している^{1)~4)}。

活動の概要

活動は、地域での講演会活動、助成事業、委託事業である。たとえば2011年度は、助成金により佐賀県内のさまざまな社会教育団体と連携して次の活動を行った⁵⁾。

- ①情報モラル教育シンポジウム
- ②ネットの安全・安心学習会、啓発劇公演
- ③情報モラル啓発劇団員養成講座
- ④ネットの安全・安心ポスターコンクール



図-2 YOKOOH! 劇場 (演技)



図-3 YOKOOH! 劇場 (解説)

- ⑤ ネットトラブル相談窓口の設置
- ⑥ 情報モラル学習教材 Web サイトの構築

また委託事業では、専従職員を配置してネットパトロールや野良スポットの調査（ウォードライビング）を行った。

これらの幅広い多面的な活動により、地域、学校、家庭を対象にあらゆる機会を捉えて情報モラルの啓発を進めている。

Kodomo2.0 プロジェクト活動

子どもたちのネット環境を守るため Kodomo2.0 プロジェクトではさまざまな活動に取り組んでいる。ここで取り上げる内容は、情報モラル啓発劇、情報モラル啓発子ども劇団 Kid さが、ネットの安全・安心ポスターコンクールである。

□ 情報モラル啓発劇(YOKOOH! 劇場)

YOKOOH! (ヨコオ) 劇場は、インターネット上で起こるトラブルやインターネット用語等を保護者や子どもたちに分かりやすく理解できるように作成したドラマ教材である。演目の主な流れとしては、素朴な少年の YOKOOH 君が誤った認識でパソコンや携帯電話を使い、インターネットにアクセスすることでさまざまなトラブルに巻き込まれる (図-2)。それを戒めるために、黒い騎士が厳しく指導し、解説者(じんじん博士)が分かりやすく場面を解説する (図-3)。その際に、パワーポイントを

演目	キーワード
第1幕	なりすまし・個人情報流出
第2幕	犯罪予告・ログ
第3幕	携帯購入・フィルタリング・暗証番号
第4幕	スパムメール (迷惑メール)
第5幕	不正請求・个体識別番号
第6幕	ブログ炎上・表現の自由
第7幕	着うた・違法ダウンロード・著作権
第8幕	出会い系サイト
第9幕	無料ゲーム・携帯ゲーム

表-1 YOKOOH! 劇場の演目のキーワード例

利用して文字や図で提示することで、大事なポイントを明確化している。各講座を事業実施計画に沿って行った。表-1は、その演目に含まれるキーワードの例である。

中学生の主人公がさまざまなネットトラブルに巻き込まれ、それを博士が「なぜトラブルに巻き込まれてしまったのか」について解説する構成になっている。1幕あたり10分から15分程度で、啓発劇とその解説の間は、パワーポイントを利用して文字やイラストで視覚的にも提示することで、大事なポイントをマルチメディアで訴えるように工夫している。

□ 情報モラル啓発子ども劇団 Kid さが

2010年10月から情報モラル啓発劇の劇団養成講座を開始した。この養成講座では演劇家の青柳達也氏の指導で本格的な演劇を学びながら情報モラルを身に付けていく。現在の劇団員は小・中学生合わせて20～30名である。

この演劇手法を取り入れた情報モラル学習の進め



図-4 子ども劇団 Kid さが (大人との討議)



図-5 子ども劇団 Kid さが (上演)

方は、①エクササイズ (人を観る, 集中する, 演技をすることによって他者を感じる), ②問題点の把握 (個人・グループで考えさせることにより, 自分と他者の違いを理解し価値観を共有する), ③子どもと大人の討議 (多様な価値観の存在に対する気付き, 解決へのアドバイスをする), ④演技立案 (他者の立場を意識させ, ノンバーバルな表現を考えさせる)がある。この4段階を経ることによって, コミュニケーション能力の向上を目指し, 実際に演じることにより, 身近な問題としての意識が芽生え, リアリティを付与できると考えている。子ども劇の演目は, アイドルのファンサイト編, 学校裏サイト編, アダルトサイト編, 違法ダウンロード編などである。

①エクササイズでは, お互いの自己紹介を踏まえながら, 演劇を演じるために必要になる発声の基本や演劇の即興性, 即時的能力を高める練習から始まる。たとえば, みんなで輪をつくり, 仮想のボールを回し合うという練習がある。ここでの青柳氏の指導ポイントは, 渡す相手の目を見ること, 周りの目を意識すること, ボールの種類によって投げ方, 受け取り方が変わることである。この練習を通して子どもたちは, 演劇に必要な非言語コミュニケーション

ン能力, 即興的表現能力を高めていく。

②問題点の把握では, ファシリテーショングラフィックの技法を使い, 子どもたち自身が, インターネットの問題について学ぶだけではなく, 演劇に必要な役の背景も学ぶ。それぞれ演劇のシナリオごとに分かれ, 劇の問題点や解決法を考えることで, 子どもたち自身の情報モラルという視点から役を演じる背景を理解できる。

③子どもと大人の討議では, 話し合ったことを団員, 指導する教員や学生の前で発表し, インターネットや演劇を演じる背景などの問題点について徹底的に討論する (図-4)。これにより参加者全員の共通理解を深め, 演劇や情報モラルについて理解を高めることができると考える。

④演技立案では, 台詞の読み合わせや立ち稽古を行う。青柳氏は, インターネットでの問題をどのように伝えるのかということを中心に指導していた。演じる者として, 劇を通して伝えたいものをそれぞれ考えさせることで, 情報モラルを考えていく必要性を発信していく立場であるという素地を養うことができる。

最後に上演中は, 子どもたちは観ている人に何を考えてほしいのかという情報モラルを啓発する側の立場であるという意識を持って取り組むことを強調している (図-5)。

□ ネットの安全・安心ポスターコンクール

2008年度よりネットの安全・安心ポスターコンクールを開催している。「子どもとネット社会」についてのテーマでポスターを募集している。このコンクールにおいての特徴的な部門は「大人と子どもで共同制作部門」である。この部門では, 各家庭で大人と子どもがともにネットの望ましい使い方を話し合いながらポスターを制作することを目的にしている。ネット社会に生きる子どもや親たちが「パソコンや携帯電話の安全な使い方」を訴えるポスターを作成し, 制作過程を通じて「ネットの危険性」や「安全な使い方」について考える機会とすることを目的として本コンクールを開催している。今回のコン



図-6 ネットの安全・安心ポスター（県知事賞）

クールを通じて、図画工作科において情報モラル教育が行えることは、学習指導要領に述べられている教科内での情報モラル教育実践の具体例となっている。特に「大人と子どもで共同制作部門」は、親子で制作に取り組むことによって家庭内で情報モラルについて語り合う機会を設けることに成功している。ポスターコンクールの募集活動が、あらゆるメディアを通じて、「ネットと子どもにかかわる課題」の存在を広く県民に周知し、ネット犯罪を防止する具体的方策を見出そうとする点で有効である(図-6)。

ほっとネットライン活動

ネットのトラブル相談窓口「ほっとネットライン」では、メール相談対応のためにスタッフ3名(交代制)を配置し、同時に気になるサイトのネットパトロール業務を行う。相談の内容は、ワンクリック詐欺、無料アダルトサイト系ワンクリック詐欺(ウィルス)、出会い系サイト、オンラインゲームサイト(ソーシャルゲーム)、フィルタリング、携帯・スマートフォン購入、掲示板書き込みなどである。最近はSNSやスマートフォンに関する相談も増え始めており、常に最新の情報を県民に提供することが必要になっている。

活動の成果と今後の展望

ITサポートさがでは、Kodomo2.0プロジェクトの活動を中心に各団体が連携してシンポジウムや学習会・啓発劇公演などの事業を展開している。子どもの親世代や教師集団に対して、児童生徒の発達段階に応じたインターネットに関する正しい知識を与え、対策への意識を高めること、保護者に対しては世代間のデジタルデバイドを解消しようとする意識の醸成を図ることも目指している。

現在、公立中学校生徒指導部と連携して、情報モラル啓発の冊子や携帯カードなどを作成し、配布している。県内の小中高等学校または公民館での啓発劇公演や講演会の回数も毎年増加している。今後も県内各地や全国に向けて同事業を展開して地域間の意識と技能の格差を埋め、「情報モラル教育・ネットの安全指導」への関心を高める活動を展開していく。

参考文献

- 1) 陣内、横尾、江口、石橋、浴本、松田、青柳、小倉、山崎、羽田、中村、角：青少年の情報モラル醸成のための産官学民連携による保護者向け教育実践—青少年の情報モラル育成のためのドラマ教材—、佐賀大学教育実践研究、第25号、pp.285-292(2009)。
- 2) 小倉、山崎、陣内、横尾、江口、石橋、浴本、松田、山田、岩永、三枝、野崎、羽田、中村、角：佐賀大学生が取り組む市民活動Kodomo2.0、佐賀大学教育実践研究、第26号、pp.215-220(2010)。
- 3) 陣内、浴本、横尾、青柳、岩永、山田、野崎、一瀬、橋本、石橋、羽田、中村、角：情報モラル教育におけるドラマ教材開発と相談窓口設置、佐賀大学教育実践研究、第27号、pp.153-160(2011)。
- 4) 野崎、陣内、浴本、横尾、青柳、今村、羽田、羽田、角：大学生が参画するKodomo2.0のサイバー防犯活動の実践、佐賀大学教育実践研究、第28号、pp.281-288(2012)。
- 5) NPO法人ITサポートさが、地域で作る安心・安全なネット環境モデル事業成果報告書、(独)福祉医療機構社会福祉振興助成事業(Mar. 2012)。

(2012年5月31日受付)

角 和博(正会員) sumik@cc.saga-u.ac.jp

佐賀大学文化教育学部附属教育実践総合センター教授、NPO法人ITサポートさが理事長。技術教育および情報教育を専門とする。

謝辞 「ITサポートさが」の活動は、陣内誠(牛津小学校教諭)と横尾英樹(日新小学校教諭)の両理事、事務局長の浴本信子(エヌビーコム代表取締役)、青柳達也氏(演劇家・古賀英語道場代表)、佐賀大学演劇部および情報技術教育分野の学生によって支えられています。彼らの献身的な活動に心から敬意を表します。